



第29号
平成16年
2004

会 報

にしきうら



高知県立須崎工業高等学校同窓会

目 次

ご 挨拶……………	同窓会 会長 森岡 清…	1
ご 挨拶……………	学校長 山崎 澄夫…	2
学校の近況報告……………	教 頭 桑名 隆…	3
進路指導部より……………	原 仁…	4
関東支部だより……………	山本 義雄…	5
中京支部だより……………	沖 良二…	6
京滋支部だより 支部長に推されて……………	濱川 嗣郎…	7
大阪支部だより 大阪支部秋季旅行中止される……………	野並 允温…	8
幡多支部だより 須工で切り開かれた我が道……………	梨 千春…	8
高知支部だより……………	中西 安男…	10
須崎支部だより……………	梅原 正博…	11
相撲部の歴史と近況報告……………	田所伸一郎…	13
事務局便り……………		14
平成15年度決算並びに平成16年度予算……………		15
終身会費納入者(1年間分・平成15年10月11日から平成16年10月8日まで) ……		16
会報届先不明者をご存知ありませんか(平成16年10月20日現在)……………		17
平成16年度役員……………		19



ご挨拶

昭和二十六年機械科卒
同窓会会長 森岡 清

同窓会の会員の皆様におかれましては、お元気で活躍のこととお慶び申し上げます。

今年の夏は、これまでにない酷暑の連続で、どちら様も結構と飽やされたことと存じます。

さて、九月十一日には、今年度の同窓会総会が須崎市の「J A 土佐くろしお」において、第十一代校長大畠正賢先生、山崎澄夫現校長先生をはじめ、懇親会では須崎市長さんもお越しいただき、お祝辞を賜るなど、日頃から何かと目をかけて下さるご来賓をお迎えし、県内外の二百余名の会員の皆さんのご参加を得て開催されました。

ここ数年、私たちの母校は少子化の影響から、学校の存続すら危ぶまれる大変な時期を迎え、私たち同窓会も、学校ならびにPTAと協力し、できる限りの運動をしなければと考えていましたが、今回の総会ではこれまで以上の会員の皆さんがお集りいただきましたことは、その母校に対するパワーの大きさが感じられる大会でした。お集りくださった皆さんに心からお礼を申し上げます。特に遠くの支部からも支部長さんと会員さん方がお越しいただき、本当に有難く存じました。

会の概要につきましては、事務局からの報告もあ

ると思いますので要点だけご報告を申し上げたいと存じます。

先ず、問題の母校の存続問題ですが、これは、高知県立須崎工業高等学校という学校名とともに学校自体の存続が決まりました。しかし、この問題は、前からの問題点でもあります生徒数の確保が前提になります。従って今後とも、学校との協力で、生徒数確保のPRを続ける必要があります。この点について、PTAでは、その基金を拠出して、各教室にエアコンを設置して下さり、先生・生徒ともに快適な授業が可能になりました。エアコン付き教室は一般の他の高校にはないので、生徒募集で大きな武器になることを期待しています。

次に、同窓会事務局（母校に設置）に関する問題点について、皆様にもご理解をいただきたい件がございます。

その一つは、同窓会の運営資金の問題で、元來本会の年間の運営資金は、新入生の入会金と終身会費による基金からの預金利子で賄われていましたが、現在の低金利では到底これを賄うだけの利子がえられませず、基金を崩して毎年二百七十万強の補助金を出しております。このままですと遠からず基金もなくなり、運営ができなくなるということで、最も

支出の多い会報の発行を、現在の毎年から、総会の行われる年に発行することにしたしました。また総会も現在の二年毎から三年毎とし、これで従来よりも会報の年間経費を三分の一に減らすことにしました。これによって会則の変更もいたしました。

もう一点は、事務局そのものの構成です。

事務局は、母校に在職する教職員の皆さんによって運営されてきましたが、年々その数が減少し、現在では5名になっています。この人数も年々減少し、やがては同窓会員の教職員がいなくなるという事態も想定されます。

これまでも、事務局の皆様には大変なご苦労をおかけしてきましたし、前記のような事情もあって、この際、事務局を学校外に置くことを真剣に考える時期になっているとして、今年度の理事会（十六年五月の理事会）で提案があり、その検討機関として理事会の中に「同窓会事務局検討委員会」を置き、来年の理事会までに結論を出すことにいたしました。同窓会もいろいろと時世の影響を受け、大変な時期になってきたものだという感じがいたしますが、何よりも母校あつての同窓会という気持ちを持って、学校のPRと今後の運営に努力してまいりますので、前記しました各件につきましてはどうぞ宜しくご理解下さいますようお願い申し上げます。

これからは、日本経済の回復も若干の見通しが立つてきつたと申されています。会員の皆様方には一層のご自愛とともに、更なるご発展をされますようお願いし、併せまして同窓会に対するご理解ご協力のほどを今後とも宜しくお願いいたしましてご挨拶いたします。



ご挨拶

第十八代 学 校 長 山 崎 澄 夫

同窓生の皆様におかれましては、ますますご健勝で
ご活躍のことと存じます。日頃は本校の教育活動
にご支援、ご協力をいただきまして有り難うござい
ます。心より感謝申し上げます。

私、四年間「魅力ある学校づくり」にご尽力して
いただき、この三月にご退職されました橋本校長先
生の後任として四月に伝統ある須崎工業高等学校の
校長として赴任して参りました。よろしくお願い致
します。

また、今年は日本全土に台風が多く上陸し、被害
に遭われた同窓生の方もおられるのではないと思
います。この紙面をお借り致しましてお見舞い上
げます。

昭和十六年に高知県立須崎工業高校として開校さ
れ、本年度で六十周年を迎え、三月には百十二名の
卒業生を送り、これまでの卒業生総数は九千四百三
十四名となりました。平成十四年には化学工業科が
募集停止になり、現在は機械科・造船科・電気情報
科の三学科九クラスで、生徒数二百六十七名が在籍
しています。

昨年度県立学校の再編計画、学科改編等を所管す
る高等学校改革課から本校に對しまして女子中学生
が興味・関心のもてる科について検討しなさいとの
お話があり、校内で検討し、今年の三月校名を変更

せずに「介護福祉学科」を県教委に申請しましたが
「人員配置」及び「予算」等の関係で残念ながら却
下されました。しかし、学校存続のためには、高知
県高校問題検討委員会の報告にもありますように、
適正規模（二年四クラス）の工業高校にとの思い
を強く持つております。少子化の中、厳しい面もあ
りますが、現在校内再編委員会で検討中です。

本校は「勤勉・規律・友愛・美化」を校訓として
「信頼と尊敬に値する工業技術者の育成」、「人間尊
重と連携の精神の育成」を教育目標に掲げ生徒一人
ひとりが大きく、伸びやかに育つことを願って、日々
の教育活動の充実に向けて取り組んでいるところで
す。生徒たちも、本校の良き伝統・校風を脈々とし
て受け継ぎ、勉学だけでなく学校行事や部活動にも
積極的に参加し、学校全体が活気を呈しています。

高知県内の同窓生の皆様は新聞報道等ですでに
存じだと思いますが、本県独自の第二期「土佐の教
育改革」も三年目を迎え、その成果を県民に明らか
にしなければならぬ状況を迎えております。本校
におきましては、これまでの取り組みを検証し、同
窓生・保護者地域の皆様方と互いに連携し、ご協力
をいただきながら生徒たちの「心の豊かさ」や「学
力の向上」などその成果が、生徒たちに還元できる
よう全力を挙げて参りたいと考えています。

職員の意識改革をはじめとした「資質指導力の向
上」、「子どもたちの基礎学力の向上」、「豊かな心を
育む教育の推進」などの教育改革の六本柱としてあ
げられている内容も、その根幹は、生徒たちがいか
に充実感、存在感のある学校生活を送ることが出来
るか否かに懸かっていると考えます。同時に学校の
取り組みなどを広く情報提供し、学校運営（保護者・
同窓生の皆様のご意見を反映し、よりよい学校像を
求めて学校経営を進めていくことが肝要と考えてい
ます。

お陰様で、六月には保護者・同窓生の皆様方のご
尽力により普通教室へ空調設備を設置していただき、
生徒たちは快適な教育環境で授業にも集中でき、教
育効果が向上致しました。県立学校では、県教委が
騒音や病弱児への対応として「県費」で数校に設置
していますが、本校のように「PTA」による普通教
室への空調設備設置は県下で最初です。

この九月十一日には、二年に一度の平成十六年度
同窓会総会が約二百名の同窓生が参加され、盛大に
開催されました。須崎・高知の支部の同窓生はもち
ろん、遠くは、関東・中京・大阪・京滋の各支部の
皆さんも出席されていました。学校と親密な関係の
組織であります同窓会が、このように盛大に総会を
開き、楽しく催されることは私共学校と致しまして
も大変心強く思う次第です。本当に有り難うござい
ます。

最後になりましたが、同窓生の皆様方、今後とも
母校の発展のためご支援をお願い致します。また、
会員相互の交流や親睦により同窓会が一層充実・発
展されますことをご期待すると共に同窓生の皆様方
のご活躍とご健勝をお祈り致します。

学校の近況報告

教頭 桑名 隆

須崎工業高校同窓生の皆様におかれましては益々ご清祥にてご活躍のことと存じます。また、日頃は母校並びに後進指導に、ご理解とご協力をいただき厚く感謝申し上げます。

月日のたつのは早いもので、私が着任しては二年が経過しております。それでは学校の近況をご報告させていただきます。

平成十六年三月一日に行いました卒業式では、高知県議会谷本敏明議員、中土佐町西森英身町長、市川嘉彦須崎市教育長、森岡清同窓会長、各中学校長、PTA会長・役員をはじめ多数のご来賓の方々に参列していただきました。百十二名の生徒が卒業し新たに同窓会の一員となっておりますので、先盟諸氏におかれましては今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

教職員の人事異動

平成十二年度から第十七代校長として本校教育にご尽力をされました橋本俊彦校長、化学工業科最後の卒業生をホーム主任として送り出された岡本雅道先生のお二人の教員が退職され、九名の教職員が転出し七名の教職員が転入いたしました。ご退職・ご転出されました教職員のご健勝をお祈りし、転入しました教職員一同心機一転頑張つてまいりますのでよろしくお願いいたします。

退職

橋本 俊彦（校長）
岡本 雅道（化学工業科）

転出

深瀬 尚子（地歴・公民）
柳本 朋幸（保健体育）
藤岡 常幸（機械科）
山崎 真吾（機械科）
松岡 聡（化学工業科）
濱田 康裕（化学工業科）
宮崎 司（造船科）
長山 佳代（事務）
山岡 英樹（事務）

転入

山崎 澄夫（校長）
浜宇津正顕（地歴・公民）
中川 明彦（保健体育）
長山 孝弘（機械科）
中野 達也（機械科）
中城 加代（事務）
武中 勢志（事務）

生徒状況

少子高齢化・情報化・国際社会等、教育を取り巻く環境は大きな変革時期を迎え、本校も平成十五年度化学工業科最後の卒業生を送り出し、三科態勢となつていきます。四月七日入学式で機械科三十二名・造船科三十七名・電気情報科二十八名、合計九十七名の新生を迎え、全校生徒総数二百七十名でスタートしております。

学科別生徒数

学年 性別 学科別	1 年		2 年		3 年		計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
機械科	33 (1)	0	33 (1)	0	32	40	105 (1)	0	105 (1)
造船科	37	0	37	0	17	27	81	0	81
電気情報科	25	3	28	2	29	26	78	6	84
計	95 (1)	3	98 (1)	2	78	93	264 (1)	6	270 (1)

学校行事・部活動

平成十六年度の開校記念日五月二十五日には、昭和五十六年機械科卒業の四万十自然工房「仙人」主人・梨千春様の「地域で生かすデザイン」と題して記念講演を行っていただきました。須崎工業高校では下宿生活・ソフトボール部外野手、名古屋芸術大学では工芸デザインを専攻され自分の考えを最大限に生かせるオリジナル自転車デザインの研究、大学卒業後自転車製造業のデザイン会社を経て現在に至つており、大自然に囲まれた西土佐村での生活から生まれる創造力豊かな作品や人生の生きがい・やりがいのある作品に對しての「ものづくり」の基礎について講演をいただきました。その後恒例の科別対抗綱引き大会を行い、三年機械科が昨年度よりの二連覇となりました。

七月十五日に第三回校内ドラゴンカヌー大会を市役所職員・漁協関係者はじめ保護者等のご協力で行うことができ、みごと三年機械科が優勝しました。

今年にはNHKの番組（よくばり体験ランド7/26放送・四国ウォッチング8/7放送）でも取り上げていただきましたので、ご存知の同窓生も多いと思われると思います。今後も特色ある学校づくりと学校の伝統行事としての取り組みが考えられます。須崎市のドラゴンカヌー大会も第10回を迎え、造船科生徒二チーム・PTAチームの三チーム参加しましたが、残念ながら上位入賞はできませんでした。先輩と教職員達が製作したドラゴンカヌーを使って有意義な一日を過ごすことができました。同窓生の皆様方もそれぞれチームを組み合せて一度参加してみませんか？

本年度から選択教科スポーツ工学が始まり、部活動も年々充実・活発化してきており、五月の県体では八十人ほどの選手団で望み、空手道は個人組手の部で中西良太君（三E）がベスト8で四国高校空手道選手権大会出場、相撲部は個人軽量級の部で石元勇次君（二M）が第三位で四国高校相撲選手権大会出場を決めております。また、卓球部も見事団体第三位・個人シングルスで金堂卓司君（二E）がベスト16になり三十二年ぶりとなる四国大会出場権を獲得しました。空手道部は三年連続、相撲部も復活後二年連続、卓球部も新しい分野へとその勢力を誇示しています。そのほか野球部・ソフトボール部・バスケットボール部・バドミントン部・陸上部・クライミング部などの部活動も毎日熱心に練習しており、今後の活躍が大いに期待されるところです。

この報告をお読みいただくころは、第二十二回文化祭や技術競技大会も終わり、二学期も終盤になっているところだと思いますが、同窓生の皆様方のご健勝をお祈りするとともに、引き続き本校へのご支援をお願い申し上げます。

進路状況

○15年度都道府県別就職者数

関東	3	東京	21
東海	5	愛知	41
関西	8	大阪	43
中国	6	岡山	24
四国	8	香川	44
県外計			30
県内			28

○地域別就職者数

年度	11	12	13	14	15
県内	43	30	39	27	28
中・四国	15	14	15	12	14
関西	12	12	3	6	8
東海	8	5	8	3	5
関東	4	3	5	4	3

進路指導部より

原 仁

本年度の進路指導部は原仁（部長 数学）、西山庸一（就職 造船科）、横山直行（進学 数学）、長山孝弘（三M主任 機械科）、三浦叙裕（三S主任 造船科）、氏原栄一（三E主任 電気情報科）、石元教夫（就職支援）の七名で担当しています。昨年度は八名で担当していましたが、生徒減少と化学工業科廃科による教職員数削減により、昨年に続き進路指導部は一名減となりました。多田玲子さんは今まで同様に進路のお世話をいただいています。

今年も四月から企業訪問を数多く行ない求人依頼をお願いしてきました。生徒にとっては厳しい状況が続いているものの、県外企業の求人が徐々にではありますが増加し、求人状況は、八月三十一日まで求人票の総数は、百六十二社（関東四十五社、東海二十二社、関西三十五社、中国その他二十九社、県内三十一社）です。今年も就職希望者が多く、来春の卒業予定者九十四名中、九月中旬の第一次採用試験に応募する生徒は、五十六名です。昨年同様、事実上二回戦がない厳しい就職試験となっています。同窓会の皆様方の学校へまた後輩への変わらぬご支援をお願い申し上げます。

○本年度並びに過去3年間の求人状況（会社数）

年度	関東	東海	関西	中・四国	その他	県外合計	県内	合計
16年度	45	22	35	28	1	131	31	162
15年度	47	11	43	27	1	129	41	170
14年度	47	13	49	25	0	134	33	167
13年度	48	18	57	31	0	154	50	204

（H16年度は、8月31日現在の数です）

関東支部だより

昭和四十六年機械科卒

山本義雄

同窓会の皆様方におかれましては、益々ご健勝で活躍のこととお慶び申し上げます。

関東支部は、今年の二月二十一日に前回の同窓会から四年ぶりに支部の総会を開催することが出来ました。堀内前支部長を先頭に多くの諸先輩方の献身的なご尽力で、九十数名の同窓生の参加をはじめ、橋本前校長、森岡本部長他、遠路本部からの来賓出席をいただき、盛会裡に開催することが出来、あらためて同窓会の友愛のネットワークを感じることができました。

関東支部の支部長としては、荷の重い感はしますが皆様方のご指導をよろしくお願いいたします。また総会には、六十二E卒の若手、大崎元督さんが出席され、こうしたことが新世代への橋渡しの飛躍となることにも大きな期待をするところです。

また、六月に開催された「千葉高知県人会」では「窪川会」会長を務める、三十一M卒奥田光男副幹事長さんなど、須工同窓会の各面々が取り仕切っている活躍ぶりがみられ大いに盛り上がった処です。三十八T卒逸見悦子さん親子が期待した、「はし準」の披露は盛り上がり過ぎのためキャンセルとなり残念ですが、次回は是非お願いしたいものです。

また、各出身地域での同窓会には母校の教えでもある、実践力を遺憾なく発揮する、須工同窓生の活躍が、あちらこちらから伝え聞きますので、こうしたことをよりどころとして、皆様方のご協力をいた

だき、関東支部も活動を進めてまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

高知県立須崎工業高等学校同窓会関東支部役員名簿

支部長 山本 義雄

副支部長 茨木三智夫
兼事務局長

副支部長 逸見 悦子

会 計 福井 幸正

会計監査 山本 治則

事務局 板橋昇八郎

幹 事 堀内 靖博

幹 事 荻部 幸子

幹 事 原口英紗子

幹 事 岡本 仁一

幹 事 川西 利通

高知県立須崎工業高等学校同窓会関東支部総会



中京支部だより

昭和二十九年機械科卒

沖 良二

暑かった今年の夏、甲子園球場で行われた高校野球、例年どおり同郷の明徳義塾を応援した。が、夢は途中で潰えた。真紅の優勝旗が初めて津軽海峡を越えた。北海道にとってはプロ野球のフランチャイズに次ぎ、記念すべき年となったようだ。今年ほど高校野球の印象に乏しい年は、なかったように思う。

高校野球は、完全にオリンピックにとって代わられた。オリンピックは、開幕の一年以上も前から、カウントダウンを始め、開幕に向けてムードを盛り上げていった。開会式が行われ、やがて熱い戦いが始まった。オリンピック大会期間中は、睡眠時間をさいて連日、テレビ中継に釘付けになった。誰しもが、日本選手の活躍に一喜一憂した。

そのオリンピックアテネ大会も、やがて幕を閉じた。四十年前の東京オリンピック大会を凌ぐ、メダルを獲得した。日本に元の静寂が戻った。ついこの間のことなのに、ずいぶん前の出来事のように思われる。

高校生は、一年生、二年生……という、日にちの経過を計る共通の時計を持っている。一年生の八月にキャンプに行つて、十月にはハイキングに行ったという具合だ。ところが、この時計を持つ期間はわずかに三年間で、後で思うと極めて短い。社会に出てからは、メリハリの少ない毎日の繰り返しの中で、その時計は失われる。

過去の様々な出来事が時間の経過とともに、記憶

から薄れ、順不同になったりする。やがて、それは途切れ、忘却の彼方に行つてしまい、蘇ることもない。

同窓会は社会に出てからの、オアシスの役割を担っていると考えている。今の若者は昔と違ってみんなが携帯電話やパソコンを持ち合わせ、車をも所有する。すぐ声も聞け、メールで映像まで送つたりもできる。何も持てなかつた昔に比べ、車が行動範囲を広げ、若者は一人ひとり自由闊達に行動する。若者に孤立感はない。残念ながら、少なからず個人の自由を束縛する同窓会行事への不参加は、その現れだと思ふ。

支部同窓会の役割の一つは、社会に出てから初期の何年かの、時の経過を計る共通の時計を提供することだと思ふ。支部同窓会の場を利用して、同期生と交流し、先輩、後輩を知り親睦の輪を広げてもらいたいと思ふ。

私は、中京支部の代表として、本校の同窓会に出席する機会が多い。総会は遠方のため、大変ではあるが、行く度に同期のみんなの顔をみて、元気の源(もと)を貰つて帰ってくる。

支部の同窓会のもう一つの役割として、同窓会行事を通じて、元気の源を貰える場にしてもらいたいと思ふ。

こうした活動を継続していくために、皆さんの行事への積極的な参加と、住所変更時の連絡を切にお願いする。

京滋支部だより

支部長に推されて

昭和三十一年機械科卒

濱川 嗣郎

同窓会員の皆様にはお変わりなくご活躍の事と思います。私、この度支部総会において、京滋支部長の大役を担う事に成りました。本部並びに支部役員や会員の皆様のご支援、ご協力を戴きながら前進して行きたいと思っています。

京滋支部も平成四年に発足。初代支部長廣瀬氏、田村氏、上田氏に引き継がれ今日までできました。

組織創りから人集め、その他いろいろ苦勞がありました。微力ながらも、前任者の事跡と意思を踏まえ、最大限の努力をしてみたいです。

支部行事は「にしきうら」にお知らせの様に年三、四回開催しています。総会並びに各行事も、人集めに苦勞しつつも、責任幹事の働きにより、何とか無難に消化してきました。参加者はいつも同じ顔ぶれ、なんとか一人でも多く出席、参加して戴ける様にしてみたいと思います。昭和二十年から平成十六年までの年齢差。皆に共通、関心のある行事を計画する事は非常に困難なことです。

人は一人では生きて行かない、支えあい、助け合ってゆかねばなりません。誰かが引き受け、誰かが引っぱって行くことで前に進みます。

行事についてもマンネリ化していないだろうか、今後役員の皆さんと話し合って、なにか変わった行事計画をたてたいと思っています。役員についても順送りではなく、若いリーダーを育て選出して行かねばならないと思っています。現役世代の若い会員達の

参加を切にお願いしたいものです。

少子高齢化社会が進行してきました。子どもが少なくなつた事は就学生徒数の減少になり、入学定員に大きく影響します。母校においても学科の改編もなされ、先行きに暗雲が立ち込めているよし、私達は「にしきうら」でしか、こうした事態を知るしかありません。同窓会総会で打ち出された方針に従って、私たち県外支部の会員も、最大の協力をして行かねばなりません。今年は異常気象でしょうか。猛暑や豪雨であちこち大きな被害が出ています。地球温暖化、環境破壊が急速に進んでいる気がします。

先だって田舎に帰ってビックリ。昔ハダシで走り回った砂浜が無い、こぶし大の石ばかり。日本全国の砂浜もかなり姿を消している様です。恵みいっぱい最後の清流といわれる「四万十川」でさえかなり汚染され、アユや手長エビ等々の漁獲が激減している様ですね。高知の話題は台風中継の「桂浜」に連敗続きの「ハルウララ」。明るいニュースを聞きたいものです。お互いに、ふるさと、田舎を大事に守ってゆきたいものです。自然を守るため自分達で出来る事、ゴミや生活廃水等々にも留意し、山河を綺麗にする気持ちで、一人一人が持つことが大切ではないでしょうか。何年ぶりの帰郷の時、田舎の景色に、心癒されるのは私一人ではないと思います。

私事で恐縮ですがこの年になつても、還暦軟式野球を続けています。練習は週二回、六時間グランドを走り回っています。わがチームは、今まで七回全国大会出場、第十三回東京大会（太田スタジアム）での第三位が最高成績。

今年も予選を勝ち抜き、第二十回東京大会（東京ドーム）に出場します。六十をとうに過ぎたオッサン（オジンたち）がこの炎天下頑張っています。お互いに身体をきたえましょう。

目指すは誇り高い年寄り。「若さをアピールするよりも、胸を張って老人です」といいたい。そして年を重ね、残りの人生を送りたい。昔話に花咲かす過去の自らの体験を話すことで、脳の活性化をうながしボケ防止につながる様です。お互いに健康に留意し頑張ってください。

最後に本部役員、全国の同窓会の皆様、今後ともご協力ご指導の程、重ね重ねお願い申し上げます。

「京滋支部だより」

平成十七年行事案内

一、グラウンドゴルフ大会

日時：平成十七年四月二十三日（土）

午前十時 JR草津線貴生川駅集合

（車の方は午前十時二十分 会場）

場所：滋賀県甲賀郡水口町野州川GG場

会費：一、〇〇〇円（昼食は各自持参）

用具：お持ちでない方については幹事で準備

参考：十六年度初めて行った行事ですが、ゆつたりとしたコースで適度な運動量に加えて、

競技性も結構高く参加者には大変好評でした。老若男女、初心者も含めて誰でもが手軽に楽しめるニュー・スポーツと言うことで愛好者は益々増えています。お誘い合わせの上是非多数参加されますようお願いしています。

二、ゴルフ大会

日時：平成十七年九月二十四日（土）

午前八時現地集合（予定）

場所…京都府宇治市・日清都カントリークラブ

（電動カート使用）

会費：五、〇〇〇円（賞品代、会費費、写真代等）

プレー費（昼食付）一五、〇〇〇円（予定各自払い）

参考：恒例となった日清CCでのコンペです。大

阪支部等他支部からも参加して頂いて和気

あいあい、同窓談義に花を咲かせながら、

ラウンドを楽しんでいます。

三、大山崎（天王山）ハイキング

日時：平成十七年十月二十二日（土）

午前九時三十分 JR東海道線山崎駅集合

会費：一、〇〇〇円（予定・昼食は各自持参）

コースの説明：中世から近代の歴史的に重要な観

光スポットをコンパクトに回り、最後はビー

ルの試飲が楽しめるコースを計画していま

す。初心者の方でも安心して参加して頂け

ます。

*参加の申込み方法

ハガキ又はファックスで、なるべく早く、遅くとも開催日の四十日前に左記事務局へ連絡してください。他支部の方でも歓迎です。

参加の申込を頂いた方には行事開催日の一ヶ月前に詳細案内状を送付します。都合で参加出来なくなった場合はその時にお知らせください。

*参加申込み先

〒528-0049

滋賀県甲賀市水口町貴生川610-116

電話・FAX 〇七四八-六二一四三三〇

橋田 昌和（京滋支部事務局）

大阪支部だより

大阪支部秋季旅行中止される

昭和三十年機操科卒

野並 允温

前号でお知らせしていた、バス一泊旅行は準備の都合で中止となりました。会員皆様のご期待に添えなかったことを深くお詫言いたします。本部総会には大阪支部から顧問の下村昇氏（二十四M）近森久重氏（二十六M）と私の三人が参加しました。九月二十五日に開催された京滋支部のゴルフコンペには半数を超える八人が大阪支部からの参加でした。大阪支部と京滋支部は様々な交流を行い支援し合っているのです。

支部総会は四年に一回ですから、次回は平成十八年となりますが、いずれは本部総会と同じサイクルにしなければと思います。それまでに一同に会える機会を持ちたいと考えていますので良いアイデアがありましたらご提案下さい。

同窓会の発展は母校の発展なくしてあり得ません。その為にも新入生の増加に気配りを心がけましょう。もう一つはクラス会や同期会を活発に開催することだと思えます。サラリーマンが定年を迎える六十歳からがそのチャンスです。夫婦同伴にするのも大切だと思います。

さて紙面を借りて三十年卒同期会についてお知らせいたします。平成十七年は、卒業五十周年に当たります。これを記念して春の良き日に温泉で一泊を、の声を強く、県内外から集まりやすい坂出市辺りで良い所を探していますので参加を予定して下さいます。

備多支部だより

須工で切り開かれた我が道

昭和五十五年機操科卒

梨 千春

卒業以来、二十年以上も無音のままであった当時のクラス担任の井上耿助先生より連絡があったのは、学校創立記念講演の講師の依頼でした。あまりにも急信であったためか、懐かしいという気分も味わえないまま、永い間の無沙汰で申し訳ないという思いが強い中で、勝手な自分にとっては不得手な講演ときました。普段であれば即お断りするのですが、二十数年以来の恩師の圧力と快弁にはさすがに負けてしまいました。案の定、講演の方は、私ごときをわざわざ指名してくれたことを思いますと、引き受けたことが申し訳ないという結果に終わってしまいました。私の今やっている事にスポットを当てて頂いたことには勇気づけられ、大変感謝しています。この場を借りて何とか講演の補足ができればと思っています。

四万十川の畔にある西土佐環境文化センター「四十万楽舎」。いわゆる私の地元である西土佐村の小学校（母校）を自然体験型の宿泊施設として活用している場所がそれです。その一室を借りて木工を職としていると言いますか、「職にしようともつばら勉強中」と言った方がよいのが今の私のやっている事です。生涯学習や地域活性化などを目指した活動を行なっている楽舎との関わりは、私が実家の農業というモノづくりを目指して地元に戻った時、偶々パンフレットのイラストを頼まれたのが切っ掛

けです。以来、楽舎のスタッフの個々の優れた技術や知識や人情に触れていく内に私個人だけではできない大きな、地域のためにも意義のある活動をしている面で、何とか力にならないかと思うようになりました。そして今までの自分のやってきたことを振り返って見た時に、地元の有り余った素材、間伐材や端材や流木を利用しての木工という世界に辿り着きました。おそらくこのままずっとこの道を歩むだろうと思いますし、ここまでに辿り着いたのも、今振り返ってみても、高校を須工にした時から始まっていたような気がします。須工では普通校では味わえない本格的な技術と専門知識を得ました。そこで私の場合は、技術の向上の方に興味を抱き、様々な機械を使いながらも手作業の魅力に惹かれてきました。そして自分自身でモノを創造するデザイナーの道を選んだのでしょう。ただ、手作業の魅力がもつと強ければ、何かの職人さんの弟子入りでもしたのでしょうか、製図というもう一つの魅力も須工で教えられたからこそ、その選択になったのだと思います。

デザイナーの経験は、大学でデザインを学んで以降、今でも頼まれれば木工の合間にやっているのだから、二十数年にもなることになります。だからこそ言えるのだが、人間のニーズによってデザインされたあらゆるモノの存在が人間社会を変える、そのニーズいわゆる必要性や要求が人間を堕落させる方向に向かうのは問題です。技術の進歩によりあまりにも便利さを追求してしまうと人間本来備わっている機能の一部が欠けてしまう、人間の五感全てが発揮されてこそ健全な姿なのです。今改めて身の回りのモノを覗いてみると意外とそんなモノが氾濫してい

るのがわかります。そして、経済効率ばかりを考えて大量生産・大量消費の経済システムが今だに存在し、大量放棄というゴミ問題にまで発展しています。そういったモノの価値観には、もはやそのモノに込められた人間の影すらありません。モノの生産ラインは人ではなく感情を持たない機械なのです。デザインもモデルチェンジを幾度も繰り返して、日本ほどデザインの寿命というものが短い国もないでしょう。こんな社会であるから職人はメシが食えなくなり消えていき、この国の手作業文化も減る一方です。大学の卒業製作に人間の動力源がそのまま動力となる自転車テーマにしたのも、今の木工も全ては感情を持った人の手作業という事に通じますし、須工で得た一念を貫いてきたからだと感じます。今私が木工を通して伝えていきたいのは正にそれであり、工房の屋号も、工作機械も左程揃っていない頃の先人達の優れた技を受け継ぐ意味も含め、肖りたい気持ちも込めて「拙人」としました。金属や化学樹脂とは違って木材は柔らかい、だからこそそのモノを大事に扱う心が養われるし、壊れたらいつでも修理ができるように先人達の木工品は作られています。今後のモノづくりは数量で価値を生むのではなく、手間にどのくらいの価値を生むことができるのか分かれ道になると思います。この精神は、この西土佐に限らず地方であればどこにでも残っているだろうし、まだまだ都市部よりは遥かに、より豊かな人間社会を築き上げられる可能性を秘めていると思います。

こんなことを工業系の会報に綴ることすら場違いなようだけれども、最新鋭の大型機械を使おうが、コンピュータを使おうが、それを扱うのも人間であ

り、作り上げたモノを使用するのも人間であるというところ、モノづくりの精神は同じものだと思いたいし、日本に合った、その地方にできる、その人間が豊かななる、本物のモノづくりをずっと創り続けていきたいものです。



高知支部だより

高知支部長

中西安男

同窓会員の皆さん益々ご健勝にて各地でご活躍の事と思います。

この夏は例年になく暑い日が続いていましたが八月の台風シーズンに入り九月十日迄に観測史上初めての七ツもの台風が日本列島に上陸し各地で甚大な被害が発生し大きな爪跡を残しました。

高知県でもこの大半が上陸し中でも十号（八月一日）十六号（八月三十日）十八号（九月七日）は県下に大きな被害をもたらしました。被災された方々に心よりお見舞いを申し上げ一日も早い復興を願う次第です。

さて高知支部の同窓会活動について近況をお知らせ致します。

一、高知支部会員名簿改定版発行

高知支部の友好と親睦を深め広く社会に貢献し支部の発展を願う目的から、前支部長秋山正元（三十年電通卒）さんをはじめ役員の方々の協力によって昭和十八年卒業から平成十五年卒業業者迄を年度別科に整理され総員一四九名記載の立派な名簿が十六年三月十五日発行になりました。秋山前支部長さんや前三役の皆さんのご苦勞に敬意を表します。名簿入要の方はご一報下さい。一冊千円と送料です。連絡先は高知支部会計・竹村寿夫（三十四年造船科卒）電話〇八八―八四二―六九一―四まで

一、第十九回定期支部総会開催

五月二十五日、第十九回支部総会を奥さん同伴者

四組八十四名出席のもと高知会館で開催致しました。来賓として竹村先生、久先生、堅田先生、桑名教頭、森岡同窓会長、寺田前会長、井上本部事務局長、野並大阪支部長、梅原崎支部長、山地前須崎支部長の方々のご出席を頂き盛大にできました事、厚くお礼申し上げます。

総会は十五年度事業報告並びに会計報告と十六年度事業計画と予算案が原案通り可決されました。

又支部総会の開催日を会員が参加し易い五月の第三金曜日と決定致しました。次回は十七年五月二十日金曜日となります。奥さん同伴で多くの参加をお願い致します。任期満了に伴う役員改正があり三十六名の新役員が決まりました。新役員は心新たに会員同志が気軽に声が掛け合える支部にしたいと思っています。ご指導ご協力宜しくお願い致します。

一、八月十六日野並允温氏を贈る会開催

八月六日の理事会にて現在世界的に活躍をしている野並画伯（三十年電通卒・大阪支部長）を贈る会を開いてはの声があり、急な事でしたが野並さんが高知大丸で第七回の個展を開催中で来高されており個展最終日の八月十六日須工同窓会の中野君（四十二年造船卒）が経営する居食倶楽部「旬家」で有志十五名でなごやかに開催致しました。野並さんの益々のご活躍を皆でお祝い致しました。

一、八月十八日故恩師田原先生の一周年忌と須工相模部OB有志会が「旬家」で林和夫（四十一年化学卒）さん幹事で開催されました。

当日は高山三郎さん（三十年電通卒）をはじめ県内外より二十名出席され往年の須工相模部の活躍と

田原先生の想い出談話で時間の経つのも忘れ盃を酌み交わしました。会場には仮祭壇が設けられ先生の遺影が飾られていました。

須工同窓会高知支部総会へのご案内

【恒例によりまして、いつもの処で、いつものように開催します。】

日時 平成17年5月20日 18:00より

場所 高知会館（県庁前電車道南側）電話088-823-7123

会費 一般¥5,000

平成15.16.17年卒業生と女性 ¥3,000

年令や性別にかかわらず、多数の皆さんのご参加をお待ちしております。
高知支部以外の皆様のご参加も歓迎いたします。

支部長 中西安男 電話（088）831-1655

高知支部役員名簿

役 職	氏 名	卒業区分
相談役	家 寛	18 機械
"	田 造	18 機械
"	吉 延	20 機械
"	森 春	21 機械
"	森 茂	21 機械
"	岡 清	26 機械
"	井 弘	27 機械
"	秋 元	30 電通
支部長	中西 男	32 機械
副支部長	林 幸	28 造船
"	林 夫	41 化学
"	林 良	42 電気
会 計	滝 村	34 造船
会計監査	本 彦	39 化学
"	橋 明	40 化学
理 事	石 雄	21 機械
"	西 永	25 造船
"	福 久	25 造船
"	森 敬	28 造船
"	広 豊	30 造船
"	安 吉	30 電通
"	筒 明	30 電通
"	細 文	30 電通
"	矢 保	30 電通
"	横 幸	30 電通
"	榎 哲	31 機械
"	山 隆	35 造船
"	中 求	36 機械
"	崎 敬	36 機械
"	元 作	37 機械
"	下 博	37 電通
"	竹 志	39 電通
"	中 弘	40 電通
"	山 治	41 電通
"	加 正	41 電通
"	北 生	41 電通
"	正 義	47 電通
"	福 明	47 電通
"	国 彦	58 造船
"	門 克	58 造船

須崎支部だより

昭和四十七年化学卒

梅原正博

須崎周辺も朝晩めっきり涼しくなり、秋の気配を感じること頃です。同窓会会員各位におかれましては、益々ご清祥の事と存じます。

また、先頃の大台風により被災されました会員の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

さて、私は前山地区支部長の後任と致しまして、本年度より須崎支部長に就任いたしました。微力ではありますが同窓会の繁栄と、母校の発展のため努めさせて頂きたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

須崎支部の役員も、昭和三十九年卒から平成六年迄の方がおり、日頃より楽しく懇親を深めております。中でも平成卒業の若い役員さんも三名おり、頼もしい限りです。

先日の同窓会総会ではたくさんの方々に会費を買って頂き、久しぶりにJ.Aのホールも賑やかになりました。ご出席の皆様もお互い酒をくみ交わしながら学生時代の話や、近況、同窓会に対する熱い思いなど話されておりました。次回又お会いできます事を楽しみにしております。

須崎支部ではゴルフコンペなどの親睦行事や、年間一〜三回程度の役員会を行なっています。母校の地元支部でもありますので、総会の準備などお手伝いさせて頂いています。又、母校造船科が寄贈して始まったドラゴンカヌー大会への参加も須崎支部ではありませんが、それぞれの団体で多くの会員が参加しています。

須崎支部役員名簿

役 職	氏 名	卒業区分
相談役	山地 健三	3 9 化学
支部長	梅原 正博	4 7 化学
副支部長	竹田 友一	4 2 機械
"	坂本 操	4 3 機械
"	戸梶 昭雄	4 5 電気
理 事	井上 耿介	3 9 機械
"	笹岡 文子	3 9 化学
"	谷 益好	4 1 化学
"	中川 次男	4 4 機械
"	山本 孝志	4 4 電気
"	石川 強	4 5 電気
"	岡崎 好友	4 7 電気
"	西山 庸一	4 8 造船
"	松浦 啓人	4 9 造船
"	坂本 定浩	5 4 機械
"	福原 靖幸	5 7 電気
"	川上 清英	H元年化学
"	海地 登志夫	H元年化学
"	高橋 誠幸	H 6 造船
会計監査	坂本 則夫	4 7 化学
"	古谷 隆	4 9 化学
会 計	伊藤 久文	5 2 電気

母校の選手が出場する県体などの新聞記事を見ながらいつも活躍を願っておりますが、本年の県体では相撲部や卓球部、空手部の後輩が好成績を残し、みごと四国大会に出場されました。須崎支部も少しではありますが祝い金を贈呈させていただきました。中でも相撲部については、母校の伝統競技でありますので自然と期待が大きくなります。生徒減少の中での大変嬉しい事柄となりました。益々のご活躍をお祈り申し上げます。

同窓会県外支部、県内の各支部の皆様におかれま

しては、母校同窓生の先生方が教師として、又事務局として頑張っておられますので、機会がありましたらぜひ母校の様子なども見られてはと思います。須崎支部会員の皆様におかれましては、今まで同様ご協力をお願い申し上げます。なお、新体制になりました須崎支部の役員は左記の通りとなっておりますのでよろしくお願い申し上げます。



平成16年1月に(株)四電工須工会の皆様よりテント寄贈を頂きました。
大切に使用させていただきます。(写真は校内ドラゴンカー大会)

相撲部の歴史と近況報告

相撲部顧問

田所 伸一郎

日頃は、相撲部発展のために同窓会をはじめ学校関係者には、ご尽力賜り誠に有り難うございます。本校相撲部は、昭和二十五年に相撲同好会として発足し、その翌年二十六年相撲部として正式に発足しています。二十七年全国選抜高知大会出場（団体ベスト十六）を皮切りに、二十八年には県下高校相撲選手権大会団体初優勝、また、三十二年には全国高校相撲選手権大会において団体優勝をするなど昭和二十七年から四十一年までの間に数々の全国大会において団体個人で優勝、入賞と輝かしい戦歴を残しています。この時期が全国でも名をはせた須崎工業高校相撲部の黄金期です。その後は、全国大会出場はあるものの黄金期のような際だった戦歴はなく、平成七年に最後の部員が卒業した後は休部状態になっていました。

私が、平成十五年本校に赴任してきたときには、かろうじて土俵が残っていましたが、四本柱の根本は腐り土俵は所々崩れ落ちており大変危険な状態でした。それでも土俵が残っておりひと安心しました。次は、部員を確保しなければいけないと思い身体の大きい生徒を中心に声をかけて回りましたが、なかなか相撲という競技に抵抗があり頭を縦に振ってくれませんでした。そういう生徒の中に一人だけ中学校時代に少しか相撲経験があるという生徒がおり何とか入部してもらうことができ、久々の相撲部としての一歩目が踏み出すことができました。その後、半年間は部員も増えず一名で活動していましたが、

私自身冬季新人大会には、何とか団体戦にも出場したいという希望があり、現在三年生の三名を何とか口説き落とし入部してもらい四名で出場しました。本年度は、二名の新入部員も加わり合計六名で活動しています。五月の県体では、団体戦七校中五位で四国大会出場、個人戦では体重別七十五kg未満級で三位入賞。六月の四国大会では、何とか団体戦で一勝をあげることができました。また、七月には学校関係者の力添えがあり待望の室内道場が完成しました。真新しい土俵で部員一同汗を流し今まで以上に充実した稽古ができています。まだまだ先輩方の納得のいく成績を残していませんが、少しでも先輩方に近づけるように、益々精進していきたいと思っていますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



部員名	科	学年	出身中	身長cm	体重kg
小笠原幸司	造船	1	戸波	一六二	一〇五
川村 康平	造船	1	戸波	一六〇	七〇
石元 勇次	機械	2	戸波	一六五	七五
熊谷 竜太	機械	3	葉山	一七六	一一〇
竹田 康二	機械	3	須崎	一七〇	一一五
玉川 和嗣	造船	3	葉山	一六四	六八



事務局便り

会員の皆様、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

はじめに平成十二年四月より四年間お世話いただきました橋本俊彦校長先生が退職され、後任として山崎澄夫先生が赴任されました。

また、誠に残念ですが化学工業科は、本年三月卒業の四十三期生をもって昭和三十五年開設、四十五年の歴史を閉じました。(化学工業科卒業生の総数千六百九十三名)

五月二十五日には、第六十三回開校記念日を迎え記念講演として、梨千春氏(昭和五十六年機械科卒)に「地域で生かすデザイン」の演題で講演の願いを致しました。講師は大学で工業デザインを学び、デザイン等の仕事に勤務後、四万十川の古里に帰郷し西土佐村の四万十楽舎で四万十自然工房「仙人」の主人として、地元の素材を生かした工芸の製作をしております。

改めて、講演のお礼申し上げます。同窓生の皆様も西土佐村の四万十川に遊びに行った際は、ぜひ立ち寄って声をかけて頂いたらと思います。

第六十三回総会が盛大に開催される

次回総会・会報発行は平成十九年に決定

平成十六年度総会が九月十一日(土)にJ.A.土佐くろしお(須崎市)で来賓の笹岡須崎市長をはじめ七名の恩師の先生方のご出席を頂き、会員百八十七名出席の中で盛大に開催いたしました。総会の議題

については次の通りです。

- 1、平成十四年・十五年度事業報告(承認)
- 2、平成十四年・十五年度会計・監査報告(承認)
- 3、役員改選(任期は平成十六年・十七年・十八年)

・新任の役員(役員名簿は十七頁に記載)

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 常任理事 | 梅原俊男(平成十五年より母校教員) |
| 常任理事 | 長山孝弘(平成十六年より母校教員) |
| 理事 | 筒井賢明(高知支部) |
| 理事 | 竹村寿夫(高知支部) |
| 理事 | 林和夫(高知支部) |
| 理事 | 中川守(高知支部) |
| 理事 | 中川次男(須崎支部) |
| 理事 | 山本義雄(関東支部長) |
| 理事 | 伊藤久文(須崎支部) |
| 役員の皆様、宜しくお願いいたします。 | |
| ・退任(平成十四年・十五年度に退任された役員) | |
| 常任理事 | 山岡英樹(昭和五十七年機械) |
| 常任理事 | 宮崎司(平成十一年造船) |
| 理事 | 坂本臣三(昭和二十五年機械) |
| 理事 | 堀内靖博(昭和三十六年機械) |
| 理事 | 竹田友一(昭和四十二年機械) |

(全員承認)

退任されました役員の皆様は、長年に亘り同窓会のため、ご尽力頂き誠にありがとうございます。退任されましたも宜しくお願い致します。

- 4、平成十六年度事業計画並びに予算(承認)
- 5、同窓会の運営について

平成十五年度理事会で母校出身の教員がなくなり、事務局の運営が今後困難になっていく事が議題に上がり、同窓会の組織や運営方法等について、検討課題として取り組む決定がなされました。その後、平成十六年度理事会において更に討議され、今回の総会に提案・承認されました。

①規約改定(総会の開催変更)

第五章 会議 第十三条

総会は三年ごとに開催し、必要に応じ随時に開催する。(経費節減策として)

第四章 役員 第十一条

役員の任期は三年とする。但し再任は妨げない。規約改定にともない会報の発行を三年に一回とする。(経費節減策として)

②事務局体制検討委員会を設置する。

ア検討委員会の構成委員は九名とする。

森岡(会長)、岡林・下元(副会長)、井上・山地・梅原(常任理事)、井上・西山(事務局)

イ検討事項

○事務局の設置について

母校内に置いている事務局が局員の減少から運営できない状況になってきた。現在行っている局員の実務については、校外の県内支部に分担し移管せざるをえない

○一般会計の節減について

○支出金額の削減(会誌の発行年等について)
以上を十六年度の検討課題とし十七年度の理事会で承認を得る。

引き続き、懇親会が開かれ、久方ぶりの旧交を温めました。

平成15年度一般会計決算報告書

単位 (円)

項目	金額	備考
前年度繰越金	274,751	
新入生入会金	166,000	2,000円×83名
定期預金利息	32,134	
普通預金利息	46	
雑収入	0	
特別会計補助	2,045,000	
合計	2,517,931	
項目	金額	備考
会費	40,648	理事会・その他
事業費	1,144,554	
通会費	13,875	
事務費	0	
庶務費	122,662	
旅費	319,063	
支配金	803,230	
雑費	2,100	
予備費	0	
合計	2,446,132	
平成16年度への繰越金額	収入 2,517,931 - 支出 2,446,132 = 71,799	

平成15年度特別会計決算報告書

項目	金額	備考
前年度末累積立額	33,465,000	
平成15年度納入額	1,665,000	15,000円×新卒117名
合計	105,000	15,000円×旧卒7名
一般会計へ補助	35,235,000	
合計	2,045,000	
平成16年度へ累積立額	収入 35,235,000 - 支出 2,045,000 = 33,190,000	

監査報告

帳簿及び証憑等により監査の結果、金額その他については相違なく、預金通帳・定期預金証書とともに簿類に管理適正に執行されています。

平成16年4月21日

監査人 坂本 西森



【収入】 平成16年度一般会計予算

項目	金額	備考
前年度繰越金	71,799	
新入生入会金	194,000	2,000円×97名
定期預金利息	16,000	
普通預金利息	0	
雑収入	0	
特別会計補助	2,360,000	
合計	2,641,799	

【支出】

項目	金額	備考
会費	60,000	理事会・その他
事業費	1,146,000	
通会費	35,000	開校記念品代 300本×102円
事務費	450,000	会報印刷代
庶務費	30,000	発送タックシール他
旅費	560,000	会報送料
支配金	35,000	会報用封筒代
雑費	16,000	卒業証書用丸筒代 94名
予備費	20,000	調査費
合計	100,000	平成 16,09.11
支配金	30,000	
庶務費	20,000	
旅費	200,000	
支配金	786,050	
雑収入	54,600円	関東 200円× 273名 +
合計	42,900円	中京 300円× 143名 +
支配金	27,600円	京滋 400円× 69名 +
雑収入	77,800円	大阪 200円× 389名 +
合計	184,000円	高知 200円× 920名 +
雑収入	334,050円	須崎 170円×1965名 +
合計	36,000円	窪川 300円× 120名 +
雑収入	29,100円	幡多 300円× 97名 +
合計	10,000	
雑収入	89,749	
合計	2,641,799	

平成16年度特別会計予算

項目	金額	備考
前年度末累積立額	33,190,000	
平成16年度納入額	1,410,000	15,000円×94名
合計	75,000	15,000円× 5名
一般会計へ補助	34,675,000	
合計	2,360,000	
平成17年度へ累積立額	収入 34,675,000 - 支出 2,360,000 = 32,315,000	

終身会費納入済者名

(平成15年10月11日から平成16年10月8日までに納入いただいた方々)

ご協力に感謝とお礼を申し上げます。

電 気 科	中 川 明典	日 浦 拓磨	<平成16年>	<昭和35年>
青 木 透	中 村 文哉	久 岡 佐多央	機 械 科	機 械 科
今 橋 亮介	奈 路 陽平	日 林 靖典	池 上 浩 二	津 野 和 正
大 野 大 将	西 川 晃弘	細 川 知輝	出 間 翔太	<昭和36年>
岡 崎 良平	西 森 啓人	松 浦 慶太郎	大 川 雄也	機 械 科
岡 田 文弥	廣 瀬 光基	宮 本 卓実	岡 勝 也	谷 脇 忠 明
岡 林 寿和	古 谷 数幸	明 神 伸一	岡 崎 亮平	造 船 科
川 村 久康	松 本 秀昭	毛 利 敬	岡 田 明	中 山 信 賢
北 澤 雄貴	森 野 孔大	森 岡 悦康	小 野 佑太	<昭和37年>
楠 瀬 祥太	和 田 龍一	矢 野 玄大	堅 田 泰彦	電 気 通 信 科
斉 藤 雅彦	化 学 工 業 科	横 畠 和幸	坂 本 知 之	西 田 実 吉
笹 岡 洋介	秋 本 雄 介	造 船 科	柴 田 亮	<昭和42年>
嶋 崎 誠	池 田 雄 亮	井 上 浩延	下 元 壮太	機 械 科
竹 内 文 章	氏 原 知孝	岩 本 雄貴	下 元 良太	久 原 友 幸
谷 脇 健史	岡 崎 憲幸	大 川 貴史	高 野 力	<昭和50年>
中 間 優太	岡 田 祐一	岡 崎 翔	高 橋 新介	機 械 科
中 山 貴光	金 山 浩一	岡 田 尚也	竹 田 和矢	二 官 敏 幸
西 森 俊洋	久 保 昭二	片 岡 弘行	竹 村 英訓	<昭和52年>
野 中 博司	坂 本 慎	門 屋 興司	竹 村 光男	機 械 科
橋 田 賢治	下 元 俊英	加 茂 智志	谷 脇 敏正	内 田 作 男
福 井 多佳志	杉 本 龍弥	黒 原 広志	玉 川 雄哉	電 気 科
眞 邊 浩享	高 橋 佑典	佐 々 木 務	戸 田 賢伸	伊 藤 久 文
宮 本 敬也	西 村 章	佐 々 木 祐輔	中 越 博一	
明 神 拓哉	福 井 翼	島 崎 裕大	長 瀬 史典	
安 井 佑	松 浦 君昌	杉 本 貴文	鍋 島 光明	
矢 野 啓介	松 本 健太	竹 崎 嘉隆	西 村 敏宏	
山 岡 君治	松 本 雄太	谷 本 壮司	西 森 瑛	
山 崎 健太朗	山 中 彬 文	谷 本 裕誠	西 森 匡哉	
山 本 佳史		玉 井 洋平	野 瀬 悟嗣	

同窓会終身会費納入のお願い

同窓会の運営は、会則第7章会計、第21条に基づいて、会員の皆様からの入会金、会費、寄付金を持って充てていますが、その中でも卒業生からの終身会費が、主な財源となっています。

事務局におきましては、納入いただきました終身会費を積み立て、その利息で、活動資金の大半を捻出しています。

この実情にご理解戴き昭和53年以降の卒業生は、卒業の時点でほとんど納めてくれていますし、平成4年以降の卒業生は、卒業時全員納入いただけるのはこびとなっています。

終身会費未納の皆様方には、(会報の中に郵便振り込み用紙をはさんでいます)同窓会活動を今後とも益々発展さすため、是非とも早い時期に終身会費を納入下さいますよう、ご協力お願い致します。

平成8年8月の総会にて終身会費の値上げを決定いたしました。1万5千円を納入下さい。

平成16年度 役 員 名 簿

役 職	氏 名	卒コード	科 別	備 考
相談役	田 辺 博 造	1S18-013	機 械 2 種	
〃	清 家 寛	1S18-010	機 械 2 種	
〃	寺 田 郁 雄	1S21-025	機 械 1 種	
名誉会長	山 崎 澄 夫			母校校長
会 長	森 岡 清	1S26-020	機 械	
副会長	岡 林 幸 保	1S28-038	造 船	
〃	下 元 征 夫	1S37-129	電 気 通 信	
〃	桑 名 隆			母校教頭
〃	井 上 耿 介	1S39-004	機 械	事務局長
常任理事	森 下 春 茂	1S21-019	機 械 1 種	
〃	井 上 健 弘	1S27-002	機 械	
〃	山 地 健 三	1S39-180	化 学 工 業	
〃	梅 原 正 博	1S47-116	化 学 工 業	須崎支部長
〃	津 野 隆	1S41-090	造 船	事務局
〃	長 山 孝 弘	1S52-028	機 械	事務局
〃	梅 原 俊 男	1S54-036	機 械	事務局
理 事	吉 村 功	1S21-081	機 械 2 種	
〃	田 村 武 夫	1S29-050	造 船	
〃	秋 山 正 元	1S30-061	電 気 通 信	
〃	筒 井 賢 明	1S30-080	電 気 通 信	
〃	野 並 允 温	1S30-077	電 気 通 信	大阪支部長
〃	中 西 安 男	1S32-023	機 械	高知支部長
〃	竹 村 寿 夫	1S34-087	造 船	
〃	松 浦 政 志	1S35-065	機 械	幡多支部長
〃	沖 良 二	1S39-013	機 械	
〃	笹 岡 文 子	1S39-157	化 学 工 業	
〃	林 和 夫	1S41-170	化 学 工 業	
〃	中 川 守	1S42-177	化 学 工 業	
〃	中 川 次 男	1S44-035	機 械	
〃	戸 梶 昭 雄	1S45-149	電 気	
〃	山 本 義 雄	1S46-038	機 械	関東支部長
〃	伊 藤 久 文	1S52-193	機 械	
〃	坂 本 定 浩	1S54-009	機 械	
監 査	坂 本 操	1S43-030	機 械	
〃	西 森 豊	1S45-151	電 気	
会 計	西 山 庸 一	1S48-090	造 船	事務局

各種証明書の発行について

(母校事務室からの伝言)

証明書が必要なときは、所定の証明書交付申請書(用紙は事務室に備付)を校長宛提出しなければなりません。

申請書には必要事項記入のうえ押印し左記金額に相当する高知県収入証紙を貼付してください。遠隔地からの申込みは事務手続に相当の日数を要しますので早目に申込みをしてください。又県外には高知県収入証紙は販売していないので、現金、又は郵便小為替を同封してください。

なお返信用の封筒には切手の貼付、住所、氏名、郵便番号をお忘れなくご記入ください。

手数料は次のとおりです。

卒業 証明 書	一通につき四二〇円
成績 証明 書	一通につき四二〇円
単位修得証明 書	一通につき四二〇円
送 料	
送り先	〒七八五―八五三三

須崎市多の郷和佐田甲四一六七ノ三
高知県立須崎工業高等学校事務室
電 話 (〇八八九) 四二一―八六一
FAX (〇八八九) 四二一―七一一

証明書の件につき不明な点等がありましたらいつでも右記電話番号の証明係までお電話ください。

編集後記

毎年のことながら、各支部の役員並びに会員の皆様に原稿をご依頼いたしましたところ、ご多忙中にもかかわらず心よくご寄稿頂きありがとうございます。

会報「にしきうら」第二十九号を、お送りいたします。会報届け先不明者の住所等ご承知の方並びに住所・勤務先が変更になった方は、会報の折り込み葉書で事務局まで連絡下さいますようお願いいたします。

編集委員

会報「にしきうら」第二十九号
平成十六年十二月一日発行

高知県立須崎工業高等学校

発行所 同窓会事務局

有限会社笹岡印刷所

印刷所

高知県須崎市東古市町二番十六号
☎ (〇八八九) 四二一―〇二四四番

資源保護のため再生紙を使用しています。

校歌

一、須崎工業高校の
教の庭に身と心
新天新地光明の
輝やくもとに勇ましく
日々鍛いぬく健児団

二、自然の暗示わが教
大平洋の荒波は
わが人生の活動か
さらに心の平穏は
波静かなる錦浦

三、工業報国理想とし
自主独立の精神を
いだき責務を怠らず
真理と正義重んじて
わが向上の道を逐う